

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ(現代イスラ(900015))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	後期
単位数	1単位
年次	1年
成績評価	出席は必須です。 講義・ディスカッション時の積極的な発言と、講義時間内のミニレポートを基に評価します。
授業概要	世界三大宗教の中でイスラム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接触する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11以降の偏向した欧米メディアによる情報、あるいはイスラム過激派によるテロ等の発生状況も加わり、イスラムに対する誤解は強化されるばかりである。本講義では、ごく基礎的なイスラムに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラム世界の文化と社会について学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:なぜ今、イスラムについて学ぶのか 2. イスラムの基礎的知識:その教えと歴史、変遷 3. ディスカッショングループ作りと各自自己紹介、イスラム教イメージとメディアについて(講義および討論) 4. 現代のムスリムたちの日常世界と人生?トルコや中東世界の事例を中心に 5. イスラム世界の芸術・経済・教育・女性について 6. 現代イスラム世界の多様性 7. イスラム世界といかに付合うか:ムスリムたちの論理とグローバル化について(講義および討論) 8. ミニレポート作成、受講者の関心のあるトピックについて討論
教科書	
参考書、図書	内藤正典 著『イスラム—癒しの知恵』2011(集英社新書) 小杉泰『イスラムとは何か～その宗教・社会・文化』1994(講談社現代新書)
備考	【履修条件・その他】 特になし。イスラムや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な履修を歓迎します。知識を得るだけでなく、「考える」講義であることを理解して選択してください。

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(感性の実践(900016))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	前期
単位数	1単位
年次	1年
成績評価	授業への参加態度およびレポート
授業概要	<p>環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができます。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたいと思います。</p> <p>日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。</p>
授業計画	二日間の集中講義を行います。講義とフィールドワークを組み合わせ、第一日目の午前中は講義を行い、午後は、京都市内の「ふるさと見分け」を行います。また、第二日の午前中は、京都市内の別地域で「ふるさと見分け」を行い、午後、ふたつの「ふるさと見分け」から、「ふるさと見分け」を展開するための談義を行って、地域づくりのための社会的合意形成とプロジェクト・マネジメントの方法を身につけます。
教科書	プリントを用意します。
参考書、図書	
備考	

[戻る](#)

科目名	京都学事始－近代京都と三大学(900026)
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	前期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	出席と簡単な授業後のレポート、また期末試験に代えて課題レポートを課します。その内容によって採点します。
授業概要	<p>この授業では、京都と深い関わりをもつ歴史ある大三つの学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した京都の近代を知り、近代化を進める上で三大学が果たした役割を振り返るお話をします。三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、京都の産業が成長・発展してきました。この過程を学ぶことで、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認してもらいます。そして、京都近代の歴史を知るで、現代社会における大学の役割を考え、学生さん、教員と京都の地域社会の関わりを考えます。</p> <p>三つの大学は、京都の産業、経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わることで、京都の企業や施設、行政機関が発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の街の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらおうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。</p> <p>三つの大学と京都府総合資料館から講師の先生方が来られ、近代京都と三大学というテーマに沿って、毎回ごとに示された小テーマを順番に講義していきます。</p> <p>目標は、三つの大学で学ぶ皆さん方がそれぞれに誇りと自信をもち、京都に暮らす市民として京都を楽しんで貰うこと、そしてこれからの大学生活を送る基礎教養を身につけることです。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.序論:京都学とは、なぜ三大学を主題に話を進めるのか 2.シンポジウム『京都学事始－近代京都と三大学』、近代京都と三大学を通して学ぶ京都学、今京都に学ぶことの意味を探る。京都における高等教育の成立①:近代京都の始まりと三つの大学誕生の背景 3.京都における高等教育の成立②:京都府立医科大学の歴史、仮療病院(1872)に始まった大学の発展 4.京都における高等教育の成立③:京都府立大学の歴史、簡易農学校(1895)に始まり、女専と大学に発展した歴史を知る 5.京都における高等教育の成立④:京都工芸繊維大学の歴史、京都蚕業講習所(1899)から高等工芸(1902)、そして大学への展開 6.京都における高等教育の成立⑤:京都の女性教育機会の近代化、高等教育の発展、明治初年の女紅場から女専へと府立大の歴史を女子教育の視点から辿る 7.三大学と産業の近代化①:京都のモノづくりを全国、世界に発信した博覧会と京都の産業の近代化 8.三大学と産業の近代化②:伝統産業の近代化－美術と意匠(デザイン)の再発見－琳派400周年に添えて－ 9.三大学と産業の近代化③:琵琶湖疏水の開削によって、輸送と電力は京都の産業をどのように近代化させたか 10.三大学と産業の近代化④:府立医大の歴史とともに発展した京都の医療産業、そのいち早い近代化は世界の医療産業をリードしてきた 11.京都の近代の現代的な意味を知る－京都に学ぶ人々のために－①:近代京都府の形成、農村の近代化と近代製糸業の形成－『女工哀史』にふれて－ 12.京都の近代の現代的な意味を知る－京都に学ぶ人々のために－②:近代京都の施薬院－医療・福祉の源流を探る－安藤精軒の復興・施薬院は人々の協力をえて慈善事業に拡大した 13.京都の近代の現代的な意味を知る－京都に学ぶ人々のために－③:京都の大学の歴史－大学の街京都の誕生、40以上の大学の物語と歴史を考える(7つの国公立、28の私立大、そして14の短大) 14.京都の近代の現代的な意味を知る－京都に学ぶ人々のために－④:京都の美術館・博物館の歴史を訪ねて－芸術のまち京都の誕生、街中で美術工芸を探訪する学生のために 15.京都の近代の現代的な意味を知る－京都に学ぶ人々のために－⑤:京都に刻まれた戦争の歴史－京都の近代に刻まれた戦争の足跡、京都で戦後70年の痕跡を探る－
教科書	授業の中で、必要な資料を配ります。
参考書、図書	それぞれの先生方が参考書を紹介します。
備考	【履修条件・その他】 特にありません。第2回目の授業で、この講義でお話しになる4人の先生がシンポジウムをします。是非参加して下さい。

科目名	リベラルアーツ・ゼミナール I a(感覚で探(900035))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	前期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	出席、授業における課題、レポートの合計点で評価する。 (詳細は授業の中で指示する)
授業概要	問題を解決するとはどういうことか。その理論を解釈しながら、具体的な日常における身近な問題を取り上げて、解決の糸口を発見し方法を思考する。その際、理論に基づくだけでなく、身体感覚を通して実践的な問題解決の仕方を探る。 また、ゼミナール方式をとることにより、討論を通じて同じ分野に限らず他分野の、あるいは他大学の他者との対話の中から解決の方法を導き出すとともにその重要性を知る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 問題を解決するとはどういうことか 3. 問題の発見と表現 4. 原因の仮説設定 5. 討論による情報収集と問題の理解 6. 討論を経た問題の分析と思考1 7. 討論を経た問題の分析と思考2 8. 討論を経た問題の原因と解決方法の吟味 9. 問題の原因と解決方法の選択と決定 10. 解決方法に至るまでの過程を解説するための表現1 11. 解決方法に至るまでの過程を開設するための表現2 12. プレゼンテーション1 13. プレゼンテーション2 14. レポート作成と解説 15. まとめ
教科書	特に指定しない。授業時にプリントを配布。
参考書、図書	
備考	

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅡb(現代社会(900037))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	前期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	本講義は、少人数講義であるため、授業への参加と課題の提出を重視する。 (1) 毎回、授業の後半10分を使って、リアクションペーパー(感想文など)を提出してもらう。 (2) 授業の進行に沿って、小論文の課題を6題程度出題し、添削指導を行う。 (3) 学期末に各自がテーマを決めて、4000字程度の「個人研究レポート」を作成する。
授業概要	本ゼミナールは、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。 大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」といった能動的な学びが伴って、初めて完結する。本ゼミナールでは、「考えるという行為」と「書くという行為」の相関を論じた基礎的な文献『知的複眼思考法』を教科書にして、大学で学ぶためのリテラシー能力の向上に努める。『知的複眼思考法』は全国の多くの大学で、「論文の書き方」の教科書として使われている。 『「問い」を意識しながら読み、『問い』を意識しながら書く』という、すべての科目に共通する初年次教養教育を、少人数のゼミナール形式で展開する。
授業計画	1. 「考える」とは「個別・具体的なことから」と「一般的・抽象的なことから」との往復運動(新聞の人生相談を教材とした小論文①) 2. 「考える」とは「個別・具体的なことから」と「一般的・抽象的なことから」との往復運動(新聞の人生相談を教材とした小論文②) 3. 「類似からの議論」に反論することで論理的思考力を高める(反論文の書き方①) 4. 「類似からの議論」に反論することで論理的思考力を高める(反論文の書き方②) 5. 「問い+答え」の型をとった文章を書く練習(小論文の書き方①) 6. 「問い+答え」の型をとった文章を書く練習(小論文の書き方②) 7. 問いの二形態と問いのブレイクダウン(知的複眼思考法①) 8. 概念レベルで考える(知的複眼思考法②) 9. 関係論的なものの見方と逆説の発見(知的複眼思考法③) 10. 「問題を問うこと」を問う(知的複眼思考法④) 11. 「個人研究レポート」の作成・発表① 12. 「個人研究レポート」の作成・発表② 13. 「個人研究レポート」の作成・発表③ 14. 「個人研究レポート」の作成・発表④ 15. 「個人研究レポート」の作成・発表⑤
教科書	苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社、2002年。 (講談社+α文庫版、880円) ハードカバー版ではなく、文庫版を購入してください。
参考書、図書	(1) 岡田寿彦『論文って、どんなもんだい——考える受験生のための論文入門——』駿台文庫、1991年。 (2) 香西秀信『反論の技術・実践資料編—学年別課題文と反論例』明治図書、2008年。 (3) 児玉英明『「問いの逆算」による推敲指導の事例研究 —アカデミック・リテラシーにおける「問いの重要性」を伝えるために—』『初年次教育としてのアカデミック・リテラシー教育に関する基礎的研究』2007年。 (4) 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書、1959年。 (5) 山田ズーニー『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』PHP新書、2001年。
備考	【履修条件・その他】 (1) 「高校の学び」から「大学の学び」への移行を促す 本リベラルアーツ・ゼミナールは、「大学で一生懸命に勉強をしよう」というやる気はあるが、「大学の勉強についていけないか不安である」といった1回生を対象にする。「高校で小論文の勉強をしてこなかった」「レポート課題が出されたが参考文献の探し方がわからない」、「WordやExcelといったパソコンの基本スキルが身につけていない」といった1回生を対象にして、「高校の学び」から「大学の学び」への移行を促す。 (2) 「書く」「発表する」「議論する」といったアクティブな学びを行う 大学での学びは、自ら「問い」を立てることである。問いを立てるという行為は、言い換えれば、関心を向けている対象を疑問文の形で書きとめることであり、自分の頭で考えることの出

発点となるものである。本リベラルアーツ・ゼミナールでは、自ら立てた問いについてレポートを作成する。そして、「書くという行為」、「発表するという行為」、「議論するという行為」に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開する。大教室で静かに講義を聴くのではなく、「先生や仲間と議論したい」、「自分の問題関心をレポートにまとめたい」といった学生を対象とする。

【外部リンク】

<http://daigakukan-renkei.jp/a019/>

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ(社会科学の(900038))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	後期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	①毎回、テキストを1章ずつ予習し、レポートを書いてもらう。 ②吉野源三郎『君たちはどう生きるか』の書評を2000字程度で作成してもらう。 ③山田洋次『学校』1993年のレポートを書いてもらう。 ④佐々部清『夕風の街 桜の国』2007年のレポートを書いてもらう。 ⑤授業の中で2回程度、レポート報告をしてもらう。
授業概要	日々の新聞で取り上げられるニュースの中で、何か気になっているテーマがあるだろうか。本ゼミナールは、文系であろうと理系であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持っていて、教員や仲間と議論する力を身につけたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生ひとり一人が「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。 本ゼミナールでは、古典として定評のある文献を、現代にひきつけて精読する。そして、受講生とのディスカッションを通じ、各自の問題意識を尊重しながら、社会科学に関する個人研究レポートを作成することが目標である。
授業計画	1. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考① 2. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考② 3. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考③ 4. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考④ 5. 山田洋次『学校』(視聴覚室で映画鑑賞) 6. 山田洋次『学校』(映画の感想発表とディスカッション) 7. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考⑤ 8. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考⑥ 9. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考⑦ 10. 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ社会科学的な思考⑧ 11. 丸山真男『『である』ことと『する』こと』① 12. 丸山真男『『である』ことと『する』こと』② 13. 佐々部清『夕風の街 桜の国』(視聴覚室で映画鑑賞) 14. 佐々部清『夕風の街 桜の国』(映画の感想発表とディスカッション) 15. 丸山真男「思想のあり方について」
教科書	第1回から第10回 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波書店、1937年。(903円) →複数の出版社から出ていますが、岩波文庫版を購入してください。 第11回から第15回 丸山真男『日本の思想』岩波新書、1961年。(735円)
参考書、図書	【参考書】 杉田敦編『丸山真男セレクション』平凡社、2010年。 宮村治雄『丸山真男「日本の思想」精読』2001年、岩波書店。 吉野源三郎『人間を信じる』岩波書店、2011年。 吉野源三郎『職業としての編集者』岩波新書、1989年。 吉野源三郎『同時代のこと—ヴェトナム戦争を忘れるな』岩波新書、1974年。 【映画作品】 山田洋次『学校』1993年。 佐々部清『夕風の街 桜の国』2007年。
備考	【履修条件・その他】 ①「古典」を読んだり、「映画」を見たりすることで、仲間と感想を語り合いたい学生を歓迎する。 ②本講義では、社会科を暗記科目として捉えるのではなく、「著者がどのような時代を生きて、どのような問いに向き合っていたのか」という社会科学的な思考を丹念に共有することを目的とする。

③本リベラルアーツ・ゼミナールで精読するテキストは、教養教育の古典として、ながく読み継がれている書物である。

【外部リンク】

<http://daigakukan-renkei.jp/a019/>

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナール I b(感覚で探(900039))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	後期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	出席、授業における課題、レポートの合計点で評価する。 (詳細は授業の中で指示する)
授業概要	問題を解決するとはどういうことか。その理論を解釈しながら、具体的な日常における身近な問題を取り上げて、解決の糸口を発見し方法を思考する。その際、理論に基づくだけでなく、身体感覚を通して実践的な問題解決の仕方を探る。 また、ゼミナール方式をとることにより、討論を通じて同じ分野に限らず他分野の、あるいは他大学の他者との対話の中から解決の方法を導き出すとともにその重要性を知る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 問題を解決するとはどういうことか 3. 問題の発見と表現 4. 原因の仮説設定 5. 討論による情報収集と問題の理解 6. 討論を経た問題の分析と思考1 7. 討論を経た問題の分析と思考2 8. 討論を経た問題の原因と解決方法の吟味 9. 問題の原因と解決方法の選択と決定 10. 解決方法に至るまでの過程を解説するための表現1 11. 解決方法に至るまでの過程を開設するための表現2 12. プレゼンテーション1 13. プレゼンテーション2 14. レポート作成と解説 15. まとめ
教科書	特に指定しない。授業時にプリントを配布。
参考書、図書	
備考	

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(現代社会と(900040))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	前期
単位数	1単位
年次	1年
成績評価	レポートによる(詳細は講義の中で指示する)
授業概要	<p>本講義は、商事会社で25年以上にわたり映画製作ビジネスに携わった一社会人による実践的 社会人論、体験的映画製作論の開陳である。</p> <p>具体的には、学生時代に偶然に巡り合った一冊の本(『日本の思想』)と一本の映画(『家 族』)により丸山眞男(政治思想家)と山田洋次(映画監督)を知り、傾倒し、尊敬し、心の師 と仰ぐ存在になるという思想の凝結過程を検証することで、まずもって学生時代にこそ学ぶべ き「人生を支える思想」、確立すべき「主体」の問題を確認する。その上で、奇縁により丸山・山 田両氏と親しく接する機会を得たという、稀有で望外の実体験を踏まえて、珠玉のエピソード や貴重な実話などを披露しつつ、両氏より学んだ社会的な批判精神、社会人としての生き方 や規範意識の問題等々、多面的で実践的なテーマの考察を行う。</p> <p>そして後半の講義では、映画『学校』(1983年公開)から最新作『小さいうち』まで、20年間 で11本の山田作品に出資参加した経験を基に、山田監督の人となりと人生を語る「山田洋次 論」、次いで、映画を通じて現代社会を冷徹に凝視し続ける同監督の問題意識を「作品論」と して、夫々論述する。</p> <p>尚、企業人による「訓話」や「回顧談」に墮することなく、個別的体験の普遍的な一般化を目指 すことで、生涯を支える「心の糧」を学生時代に見出すことの重要性を、受講者が覚醒するよ うな講義内容としたい。</p> <p>各講義では参考資料用のプリントを用意する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緒論・二人の師との運命的会遇について 2. 丸山眞男から学んだこと 3. 体験的社会人論 4. 体験的映画論(映画ビジネス概論) 5. 山田洋次の人と人生(山田洋次論) 6. 山田洋次の仕事(作品論)1 7. 山田洋次の仕事(作品論)2 8. まとめ及び意見交換
教科書	各講義では参考資料用のプリントを用意する。
参考書、図書	<p>丸山眞男『『である』ことと『する』こと』丸山眞男『日本の思想』岩波新書、1961年、153-180 頁。</p> <p>杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社、2010年。丸山眞男著 松本礼二編注『政治の世界』岩波文庫、2014年。</p>
備考	<p>【履修条件・その他】</p> <p>次の山田洋次監督作品のうち、最低2作品を事前に鑑賞しておくこと 「男はつらいよ」シリーズ(1969年～1985年公開)・「家族」(1970年)・「学校」(93年)・「たそが れ清兵衛」(02年)「母べえ」(08年)</p>

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ(アメリカと(900041))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	講義
開講期	後期
単位数	1単位
年次	1年
成績評価	授業への積極参加、授業終了時のレポートなど、総合評価
授業概要	<p>21世紀は、「多極化」の時代となるのだろうか？あるいは、アメリカと中国の「G2」の時代となるのだろうか？格差、環境、民族問題など困難な問題を抱えながら経済・軍事両面で急膨張する中国と、覇権の衰退と国内の分裂に悩む既存の超大国アメリカ。GDPで一位と二位を占める2つの大国は、太平洋を挟んで警戒と反発を繰り返しながら経済の相互依存をますます深めつつある。この講義では、政治体制が全く異なる現代のアメリカと中国がそれぞれ抱える国内的な諸課題、そしてそれらの要素が、両国関係のあり方にどのようにインパクトを与えていくかを考えていきたい。</p> <p>特に今年度は、来年秋に迫るアメリカ大統領選挙に焦点を絞り、ポスト・オバマをめぐる戦いを読み解くことで、アメリカ社会を深く知る機会としたい。そして、大統領選挙が、対中関係をはじめとするアメリカの外交、そして国際情勢全般にどう影響していくかも検討していきたい。</p> <p>受講者によるディスカッションも交え、ともに考えながら、理解を深めていきたい。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの現代的課題、中国の現代的課題 2. アメリカ大統領選挙とは？ 3. アメリカの何が争点なのか？ 4. ディスカッション?アメリカとは何か？ 5. 大統領選挙で、何が争われているのか？ 6. 大統領選挙の最新情勢 7. 大統領選挙と米中関係・東アジア情勢 8. ディスカッション?米中と、東アジアの平和 <p>なお、集中講義を行う時期に国際情勢に新たな動きがある場合は、それらも積極的に講義の中で取り上げていきたい。</p>
教科書	追って指示する
参考書、図書	
備考	

[戻る](#)

科目名	英語で京都(900061)
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	
開講期	後期
単位数	2単位
年次	3年
成績評価	授業中の発表の完成度ならびに討論への貢献度によって総合的に判断する
授業概要	概要:学問的な視点から「京都」について考え、英語で発信する。 目標:(1)「京都」とは何かについて、学問的に考えてみる。(2)他者の目から見た京都のありかたについて意識する。(3)聞き手を意識したナレーションやレトリックを使えるようになる。
授業計画	1. Introduction 2. 「京都」とは何か:自由討論 3. 「京都イメージ」についての発表(1) 4. 「京都イメージ」についての発表(2) 5. 「京都イメージ」についての発表(3) 6. インターネットに見る京都(1) 7. インターネットに見る京都(2) 8. エッセイの作成 9. エッセイの発表と相互検討(1) 10.エッセイの発表と相互検討(2) 11.ビデオ・スライドの作成(1) 12. ビデオ・スライドの作成(2) 13. ビデオ・スライドの作成(3) 14. ビデオ・スライドの発表と相互検討(1) 15. ビデオ・スライドの発表と相互検討(2)
教科書	特になし
参考書、図書	
備考	【履修条件・その他】 本科目は3回生配当の教養科目である。欧米言語文化学科の学生は、「英語で京都2」(専門科目)を履修すること。

[戻る](#)

科目名	意外と知らない植物の世界(900062)
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	
開講期	後期
単位数	2単位
年次	1年
成績評価	出席、授業における課題、レポートの合計点で評価する。 (詳細は授業の中で指示する)
授業概要	<p>植物に焦点をあて、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行い、文理横断する内容を展開する。文系ではイギリス文学を、理系では植物や植物園に関する知識及び植物と生活の関係性から薬草を射程に入れる。さらには、植物と植物園を活かした地域連携の教育活動について思考し企画する。</p> <p>また、府立植物園を利用したフィールドワーク的な授業を行い、文理にかかわる生きた教材としての植物に感覚を通じて触れ、植物の生きざまと死にざまを観察する。観察を通じて、人間の生活と植物の関係性を捉えつつ人間の生きざまを思索する。</p> <p>そうした学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士のinteractiveな討論が期待できる。例えば文学では、植物を感性でことばにし、イメージで捉える。それに対して理系では、植物を物理的なサイエンスの物として捉える。文理の視点の違いを理解し、異分野の学生同士が交流しながら多角的な見方を学生が獲得することを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の植物園、日本の植物園、その歴史と発展過程の必然性 (担当:松谷 茂) 2. 植物と植物園を利用した教育活動を考える1 (担当:藤井陽奈子) 3. 植物と植物園を利用した教育活動を考える2 (担当:藤井陽奈子) 4. 植物と植物園を利用した教育活動を考える3 (担当:藤井陽奈子) 5. 植物と植物園を利用した教育活動を考える4 (担当:藤井陽奈子) 6. 植物と植物園を利用した教育活動を考える5 (担当:藤井陽奈子) 7. 動物と植物の関わりや違い、その有効利用等について学ぶ (担当:後藤仁志) 8. 日本における野草の多様性と薬効のある植物の観察 (担当:松谷 茂) 9. 世界における野草の多様性と薬効のある植物の観察 (担当:松谷 茂) 10. 樹木の多様性と薬効のある樹木の観察 (担当:松谷 茂) 11. プラントハンターを魅了した日本の植物 (担当:野口祐子) 12. シェイクスピア劇に登場する植物の観察・吟味 (担当:佐々木昇二) 13. 言語表現と視覚を伴う表現との間の違いを考える (担当:佐々木昇二) 14. 熱帯植物の多様性の観察 (担当:松谷 茂) 15. まとめ (担当:松谷 茂・藤井陽奈子)
教科書	特に指定しない。授業時にプリントを配布。
参考書、図書	
備考	

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅧ(製品の機能(900064))
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	
開講期	後期
単位数	2単位
年次	
成績評価	2回のグループ発表と数回の課題レポートの内容により成績を評価します。 グループワークを主にしますので、グループ内の他のメンバーと比べて欠席が多かったりグループへの寄与が低い場合は単位を授与しない可能性があります。
授業概要	<p>皆さんは日頃何気なく使っている身近な製品を一つ手にとって、「これ、何で出来てる?」と言われて答えられますか?メガネでも保温マグカップでもいいですよ。おそらく、「金属」、「プラスチック」あたりの答えしか出て来ないのではないのでしょうか?金属といっても色々な金属がありますし、プラスチックに至っては膨大な種類があります。それぞれ性質が全く違って、その特長を最大限に活かして製品が作られています。また、どうして光を曲げたり、保温したりする機能が出せるのでしょうか?もちろん、そんなことを別に知らなくても生きてはいけますけど、知っていればより質の高い生活を営むことができます。なにより、最先端の科学技術に触れることができます。メガネや保温マグカップ一つをとっても、そこには奥深い理論的背景とそれを製品として実現するための非常に高度な材料科学や加工技術が隠されています。こんな面白いことを放っておく手はないでしょうか?でも、多くの学生さんが、たとえ理系であっても、一部の学科を除いては、何も知らずに専門に進んでいきます。</p> <p>この講義はこのような現状を鑑み、身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に対する興味を喚起するとともに、知的好奇心や考える力を育成するために企画しました。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」、「防ぐ」といった色々な機能を身近な製品や商品から探し出し、選抜して調査対象とします。</p> <p>実際の授業では三大学の学生で混成グループをつくります。ある時にはイニシャチブをとり、別の場面ではアシストに廻りましょう。自らの手と頭を駆使して対象とする素材の機能や関連事項についての調査を行い、科学技術情報の収集や発表の技法について修練することを通して、皆さん個人のポテンシャルの向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合っていく雰囲気や人間関係を創り上げていきたいと考えています。</p> <p>文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができる意欲的な学生の受講を期待します。さあ、一緒に大学で知の世界を探求する一歩を踏み出しましょう。</p>
授業計画	<p>30名の受講者を所属大学がなるべく均等に分かれるように6つのグループに分けて活動します。</p> <p>各グループにはそれぞれ1回ずつ調査結果を発表するとともに、製品やアプリケーションの企画立案を行ってもらいます。</p> <p>他に、毎週の小課題として、科学技術情報の収集、文書作成やデータ処理などの技法を指導していきます。</p> <p>具体的な日程は以下の通りです。</p> <p>(1) ガイダンス:授業の趣旨と進め方、機能に関する例示、調査対象の募集 (2) 調査対象の議論とグループ分け:自己紹介、募集した調査対象の選抜 (3) (4) 科学技術情報収集と文書作成の技法:科学論文と文献情報の整理、特許の検索、科学論文の構成、図表作成、数値と画像の取扱etc. 行程表作成:調査計画と製品企画の行程表作成と作業分担 (5) 各種の材料と物性に関する解説 (6) ? (11) 各グループの調査結果発表と解説、議論 (12) ? (14) 各グループの製品企画発表と議論 (15) 総括</p>
教科書	使いません。
参考書、図書	必要に応じて指定します。
備考	<p>【履修条件・その他】</p> <p>文系理系学部学科は一切問いません。知識の獲得に対して強い快感を感じることができる意欲的な学生の受講を期待します。2回生以上の受講も歓迎します。</p> <p>ただし、この科目はグループワークで課題を調査・探求していく形をとりますから、通常の講義科目に比べればかなりの負担になります。無茶なことを強いるつもりはありませんが、調べ始めると面白すぎてのめり込んでしまう可能性もあります。そういった点はあらかじめ覚悟しておいて下さい。</p> <p>強い知識欲と好奇心だけではなく、グループ内で協調して互いに高め合っていく意識や、最後まで継続する強い意志を持っていることが必要です。</p>

[戻る](#)

科目名	リベラルアーツ・ゼミナールⅩ(経営哲学)(900065)
科目名(英文)	
担当教員	
学部・学科	医学科,看護学科
授業形態	
開講期	後期
単位数	2単位
年次	
成績評価	①テキストを1章ずつ予習して、レポートを提出してもらう。 ②授業内でテキストの内容をプレゼンテーションしてもらう。 ③学期末にテキストの書評レポートを提出してもらう。
授業概要	マネジメントとは、問題発見・問題解決の積み重ねである。本講義では、クロネコヤマトという具体的な企業、およびビジネスの場面を想定したうえで、学生に問題発見・問題解決の思考を追体験させることが目的である。 本講義では、クロネコヤマトの経営史を問題発見・問題解決の視点から読み解いた小倉昌男『経営学』をテキストにする。本書をテキストにした理由は、優れた企業家はその時代が直面している課題に企業としての立場から解決策を示し、日々の仕事の中で人間性を高めてきたのであり、そこに経営哲学としてのケース・スタディを見いだせるからである。 戦後日本における代表的な企業家として、前半は小倉昌男を取り上げ、後半は稲盛和夫を取り上げる。彼らが日本経済史の文脈の中で、どのような課題に直面し、それをどのように乗り越えていったのかに焦点を当てる。そして、そこに見られる経営学的な思考を、企業家が生き抜いてきた同時代の文脈と切り離すことなく、一体として学ぶ。
授業計画	第1回: 宅急便前史、私の学習時代 第2回: 市場の転換—商業貨物から個人宅配へ— 第3回: 宅急便の開発 第4回: サービスの差別化 第5回: サービスとコストの問題 第6回: 三カ年計画 第7回: 行政との闘い 第8回: 全員経営、労働組合を経営に生かす 第9回: 業態化、新商品の開発 第10回: 財務体質の強化、組織の活性化、 第11回: 経営リーダー10の条件、福祉を変える経営(パン製造への参入と障害者雇用) 第12回: アメーバ経営 第13回: 現場が主役の採算管理 第14回: リーダーに必要な経営哲学 第15回: 利他の心
教科書	第1回から第11回 小倉昌男『経営学』日経BP社、1999年。 第12回から第15回 稲盛和夫『アメーバ経営』日本経済新聞出版社、2010年(文庫版)。
参考書、図書	<宅急便の経営学に関する参考文献> 小倉昌男『やればわかる やればできる クロネコ宅急便が成功したわけ』講談社、2003年。 小倉昌男『自ら語る 小倉昌男の経営哲学』日経BP社、2005年。 都築幹彦『どん底から生まれた宅急便』日本経済新聞出版社、2013年。 中田信哉『宅急便を創った男 小倉昌男さんのマーケティング力』白桃書房、2003年。 中田信哉『ロジスティクス入門』日本経済新聞出版社、2012年。 <障害者雇用に関する参考文献> 小倉昌男『福祉を変える経営—障害者の月給1万円からの脱出—』日経BP社、2003年。 建野友保『小倉昌男の福祉革命—障害者「月給1万円」からの脱出』小学館、2000年。 牧野節子『はばたけスワンベーカー』汐文社、2003年。 <論理的思考力に関する参考文献> 内田和成『論点思考』東洋経済新報社、2010年。 苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社、2002年。 <日本経済史に関する参考文献>

	<p>石井進他『詳説日本史B』山川出版社、2014年。 三和良一『概説日本経済史 近現代』東京大学出版会、2002年。</p>
備考	<p>【学生へのメッセージ】 クロネコヤマトの宅急便がスタートした1976年1月23日の取扱量は、たったの11個だったそうです。40年近くたった今となつては、宅急便の存在を知らない人はいないでしょう。なぜ、クロネコヤマトの宅急便は、これほどまでに成長したのでしょうか？本ゼミナールでは、経営学のケーススタディを教材にして、経営戦略・経営組織・マーケティングの基礎的な理論を学習していきます。また、背景となる戦後日本経済史もカバーします。</p> <p>【科目の到達目標】 ①ケース・メソッドによりながら問題発見・問題解決の積み重ねという思考様式をとることができる。 ②ケース・メソッドによりながら企業論に関する基礎的な知識・理論を説明できる。 ③経済・経営に関する新聞記事・文献をひとりで調べ、レポートにまとめることができる。</p>

[戻る](#)